

J R 総連通信

2021年12月24日 No.1495

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

**「JR東海労の出向命令解除のたたかいの勝利を確認し、
ともに職場から組織強化・拡大を勝ちとる集会」開催！**



JR総連は12月23日、「JR東海労の出向命令解除のたたかいの勝利を確認し、ともに職場から組織強化・拡大を勝ちとる集会」をリモート併用で開催しました。

山口委員長はあいさつで「JR東海のコロナ禍を理由とした『54歳原則出向』再開により、淵上法対・調査部長に出された『スリーエス』への出向発令は、淵上部長とJR東海労の献身的なたたかいにより、出向解除を勝ちとることができた。JR東海労は『54歳原則出向』について労働協約を締結しておらず、就業規則のみで出向発令せざるを得なかった。労働協約は、労働組合にも会社にも有利に働く「両刃の剣」であり、どのような内容になっているのか十分に検討する必要がある。今日の集会の諸教訓を職場隅々まで広げ、各単組の組織の実情に応じた実践により、組織強化につなげ、安全で、しっかりものが言える働きやすい職場をつくり上げていこう」と述べました。

続いて、淵上部長の面談におけるたたかいの寸劇を、淵上部長(本人役)と、小林政策・政治部長(管理者役)が演じ、出向の面談がどのようにおこなわれたのか、二人の迫真の演技で再現しました。その後淵上部長より、JR東海の「54歳原則出向」の目的と現状、また面談以降、出向の解除を勝ち取り現在に至るまでについて、報告を受けました。



(寸劇)「一方的に出向先の就労条件が読まれる」場面

全体討論では、参加者から活発に意見が述べられ、八幡書記長のまとめでは「『54歳原則出向』に対して、淵上部長のたたかいとともに、JR東海労が職場から組合員とたたかいを積みあげ、淵上部長の出向解除を勝ちとった。35名の出向対象者のうち、JR東海労組合員が23名ということを見ても、職場からJR東海労を弱体化させ一掃させる狙いがあることは明らかであり、私たちは、その瞬間にどのように反撃のたたかいを構想し、実践するのか問われている。今集会で出向解除の勝利を確認するとともに、成果と教訓をJR総連全体に広げ、組織強化・拡大につなげよう」と述べ、最後に山口委員長の「団結ガンバロー」で集会は終了しました。